

教育計画

学校運営実施計画

学校運営方針

- (1) 学校の教育目標
 勤労と責任を重んずる有為な産業人を育てる。
 ・基礎学力の向上（聡明な判断力）
 ・体力、気力の練成（たくましい力）
 ・職業的資質の育成（誠実な心）
- (2) スクール・ミッション（社会的役割等）
 【ビジネス教育を推進し、経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成する学校】
 ・実践的・体験的な学習活動をととしてビジネス教育を推進し、経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。
 ・地域社会に貢献する学校として、地域を自らの手で支えようというシビックプライドを持つ人材を育成する。
 ・専門教科と普通教科のバランスのとれた学習指導とキャリア教育により、自らの進路実現に向け粘り強く挑戦する生徒を育成する。
- (3) スクール・ポリシー
 ★グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）
 ①〔協働性・専門性〕：職業人に求められる豊かな人間性、協働性、創造性などの資質を育み、ビジネスで活用できる専門知識・技術を育成します。
 ②〔シビックプライド・貢献力〕：地域への愛着と誇りを持つ心を育て、地域の発展に貢献しようとする意欲を醸成します。
 ③〔確かな学力・主体性〕：自己の進路目標を達成できる確かな学力を養い、社会の変化に対応しながら主体的に学び続ける態度を育てます。
 ★カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）
 ①実践的で体験的な授業と課題解決型学習を通じて、生徒の協働性や創造性を伸ばし、ビジネスの各分野の知識と技術の定着を図ります。
 ②地元企業や商店街、行政等と連携した地域探究活動を通して地域理解を深め、地域振興策の提案など、地域の未来を考える活動に取り組みます。
 ③進路探究活動を通じて生徒の進路実現を計画的に支援するとともに、ICTやネットワーク上の学習資源の活用などにより、生徒が自ら将来に渡り必要な力を探究し獲得していけるよう指導します。
 ★アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）
 ①将来さまざまな職業で役に立つビジネスの学習に興味・関心のある生徒
 ②自分の育った地域社会とのつながりや交流を大切にできる生徒
 ③自己の可能性を広げるために高い目標を持ち「なりたい自分」に向かって努力できる生徒

昨年度の成果と課題	本年度の重点目標	具体的目標
<成果> ・新型コロナウイルス感染症第5類移行後の対応を踏まえ、体育祭・文化祭などの学校行事を感染症対応前の取り組みを活かしながら、工夫して実施した。 ・ビッグデータ（RESAS）を活用し、地域活性化について取り組み、本校の魅力を地域や中学生・保護者へ発信することができた。 ・地元商店街の皆様のご協力により、空き店舗を活用した商品販売を定期的に行い、地域連携を推進することができた。地域等への反響も大きく、市報・商工会議所などの取材など、様々な分野で本校の取組を紹介することができた。 <課題> ・ICTを活用した学習指導の充実 ・選ばれる商業高校づくり（特色ある教育活動の推進と積極的な情報発信） ・高専連携プログラムの円滑な実施と効果の検証	(1) 学習指導に対する生徒の信頼と安心の確立	・ICTを活用し、主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善を実践 ・生徒が商業科の専門性を磨き、そのスキルを活用して課題解決する力を育成
	(2) 生徒、保護者の希望を叶える進路指導の充実	・就職率達成率、進学率達成率100%
	(3) 生徒の人権を尊重し、自主性と自律を促す生徒指導の充実	・あいさつ励行 ・生徒自らが考え、実行する諸行事や生徒会活動の実施 ・中途退学者0、いじめ見逃し0、問題行動0
	(4) 人権尊重の精神、体力・気力の育成	・地域と連携した人権教育、同和教育の公開授業を複数回実施 ・顧問間で協力し、限られた時間で集中して取り組む部活動のあり方を工夫
	(5) 長時間勤務解消による質の高い学校教育の持続・発展	・時間外の勤務時間を1か月45時間以内、1年間360時間以内 ・部活動は週当たり2日以上の日曜・1日の活動時間は平日2時間程度、休業日は3時間程度

(4) 本年度の具体的目標と具体的方策

①学年

分掌	具体的目標	具体的方策	B評価の基準
1 学年	基本的生活習の確立	体調管理について注意・指導する。	出席率 95%～98%
		服装指導等を通じ規範意識を高めさせ、主体的に善悪の判断ができるよう指導し、自らの行動に責任を持たせる。	生徒アンケートによる「ややそう思う」 50～60%
		集団生活をととしてコミュニケーション能力を向上させ、自己の人間性を育む。	生徒アンケートによる「ややそう思う」 50～60%
		明るく元気な挨拶ができるよう指導する。	生徒アンケートによる「ややそう思う」 50～60%
	基礎学力の定着	毎日の朝学習に真剣に取り組ませる。	提出率 80%～85%
		授業の始業と同時に授業が始められるように指導する。	生徒アンケートによる「ややそう思う」 50～60%
		教科担当と連携し、正しい授業態度で毎時間の授業に集中させる。	生徒アンケートによる「ややそう思う」 50～60%

		各教科と連携し、課題を課すことにより家庭学習の習慣化を図る。	生徒アンケートによる「ややそう思う」 50～60%
	新発田商業高校の生徒としての自覚と誇りを持った態度を育む	新聞の活用をとおして社会の動きに関心を持たせ、幅広い知識を身に付けさせる。 各種の検定や部活動等に積極的に取り組むことにより、失敗を恐れず、何事にも積極的に挑戦する態度を養う。	生徒アンケートによる「ややそう思う」 50～60% 検定合格率 50%～60%
2 学年	①基本的生活習慣の定着	健康管理に気を付け、正しい生活習慣の定着を図る。	年間出席率 96%～98%未満
		規律週間などでの街頭指導、服装頭髪検査をおし、生徒の規範意識やマナーを高め、安全で規則正しい生活を送らせる。	特別指導 年間5件未満 服装検査指導対象 年間延べ30人未満
	②学力の向上と高校卒業後の進路意識の高揚を図る	各教科担当と連携し、正しい授業態度の確立と家庭学習の習慣化を図る。	朝学習及び授業の遅刻早退率 5%
		各種進路説明会や学校見学、セミナー等の情報を提供し、積極的に参加を促し、進路意識の高揚と進路目標を明確にさせる。	学年による進路に関する講座 年間1回
		個別面談を定期的に行い、生徒理解に努め、学習、生活、進路等の適切な指導や支援を行う。	個別面談 年間1回
		普通教科及び専門教科の朝学習を充実させ、基礎学力を向上を図る。	朝学習課題提出率 80%
		小論文指導を通じ、進路に向けた意識もさらに高める。	志望理由書指導 年間1回
	③中堅学年としての自覚を持たせ主体的に学校生活を営む	クラス配布の新聞の活用をとおし、世の中の動きを知り、社会事象に関心を持たせ、幅広い知識を身に付けさせる。	主な時事問題を学級日誌へ記録
		学校行事や部活動などをおし、中堅学年として3年生を補佐し、下級生への適切な指導が行えるよう自覚を促す。	部活動及び委員会活動への参加率 70%～80%
		自分の将来を見据え、高度資格取得や部活動等を奨励し、スキルや人間的な成長をはかる。	検定合格率 60%～70%
3 学年	①基本的生活習慣の確立と健康的で安全な学校生活の実践	自立を促し、規則正しい生活を自己管理の下に実践させ、心と体の健康を良好に保ち、欠席、遅刻、早退が少なくなるよう指導する。	出席率(年間) 96.0%以上98%未満
		規範意識を高め、ルールやマナーが遵守されるよう、規律週間や校内巡回を通じて安全で安心な学校の環境づくりと啓発を行う。	校内巡回 毎週1回実施
	②学力向上と知識の定着	朝学習を毎日実施し、課題の提出を促す。 各教科における課題等の提出について、提出期限を守り、家庭学習の習慣化を図る。	課題提出率 70%以上80%未満
	③適性と希望に応じた進路の実現	面談等をおして家庭と連携しながら生徒理解に努める。	面談の実施 生徒 1回 保護者 1回
		進路指導部と連携しながら進路に関する情報を適切に提供するとともに、合格に向けた小論文指導、面接指導の充実を図る。	学校評価アンケート 進路情報の提供 回答「3」「4」 50%以上60%未満
		各種模試の受験、オープンスクール、インターンシップ等に生徒を積極的に参加させ、生徒自ら主体的に取り組めるよう支援するとともに希望進路に向けた具体的な対策の情報入手に努める。	
	④学校行事をはじめとした生活全般に係る諸活動の充実	学校行事及び委員会活動や部活動の中心的な立場を担う最高学年としてリーダーシップを発揮し、伝統ある校風を継承するとともに、さらに発展させられるよう、学年の生徒全員が自覚と責任をもって取り組むよう指導する。	学校評価アンケート 学校行事の充実 回答「3」「4」 60%以上70%未満

②分掌

教務部	①学年・分掌間と連携し、円滑に校務を運営する	学校活動や学校行事が円滑に実施できるよう、学年・分掌と連携を密にして運営に努める。	職員アンケートによる「ややそう思う」 50～60%
	②授業時数の確保	授業時間の確保に努める。	年間授業時数 1,050時間以上
		自習時間の削減に努める。	年間自習率 1.6～1.8%
	③授業内容の充実と確かな学力力の育成	授業内容の工夫・改善により、確かな学力の向上に努める。	生徒アンケートによる「ややそう思う」 50%～60%
	④生徒の読書習慣定着を図る	読書の時間の実施、図書便りの発行等をとおして、読書習慣が定着するよう働きかけを行う。	図書便り 年間発行数3回
	⑤図書館機能を充実させ、適切な運営を図る	図書館における読書、学習の環境を整え、生徒の自ら学ぶ姿勢を手助けする。	年間利用者数延べ 1,300～1,400名 年間貸出冊数延べ 300～350冊
		図書委員会を構成し、貸し出し、返却整理等の指導を行う。	図書委員会開催 年間2～3回
	⑥教育活動にICT機器、視聴覚機器を利用してもらうよう促す	ICT活用教材の作成をすすめ、ICT機器を活用した授業展開の向上を図る。	ICTを活用した授業 年間実施回数 50%以上
		各種行事におけるICT機器、視聴覚機器の活用向上を図る。	行事におけるICT機器、視聴覚機器の活用 年間準備回数 15～20回
⑦開かれた学校を実現	保護者と教職員の連携を深め、開かれた学校を実現するため、PTA総会、体育祭、芝商祭等への積極的な参加を図る。	PTA総会参加者40名 書面による回収率70%	
⑧保護者参加の研修の充実	生徒の健全育成・進路実現のために、保護者対象講演会、PTA視察研修の参加など、各種研修等の企画に努める。	研修旅行参加者30名	
⑨保護者への情報伝達	PTAメール配信の全員加入を促し、緊急情報やPTA活動の日程等を素早く正確に保護者に伝達し、PTA活動に対して理解を深めてもらう。	年間配信回数12回	
保健安全部	①健康的な心身の育成	健康的な心身の育成に向けた保健講演会を実施する。	年1回実施
		保健室来室者の状況把握と適切な対応を心がけ、関係者との連携に努める。	状況把握と適切な対応を行う
		計画的な健康診断の実施及び事後指導を徹底する。	法的期間内での健康診断及び事後指導の実施
		疾病予防意識や感染症予防意識を高めるとともに、健康に関する自己管理能力を育てる。	学校全体の出席率90%以上
	②安全で清潔な学校生活環境の整備	定期的な大清掃を実施し、積極的な校内美化に努める。	各学期及び行事ごとに大清掃を実施
美化週間を設定し、学校全体の環境整備意識を高める。		年2回の美化週間の実施	
生活指導部	①基本的生活習慣の確立	規律週間を通して、身だしなみ指導、挨拶の励行、遅刻防止とともに、朝学習への取り組みについて全職員で指導する。	毎月5日間の規律週間を設け、朝の立哨指導、教室廊下の巡回を実施する。
		家庭や警察との連携により問題行動の未然防止に努め、「特別指導ゼロ」を目指す。	集会や行事等の機会を通じてモラルやマナーに関する講話を実施する。(年3回)
	②生き生きとした学校生活の確立	配信メールや配付物等をとおして、きめ細かな情報の提供を心がけ、家庭と連携した生活指導を徹底する。	季節ごとのたよりを発行し、休業中の心得、服装、交通安全について生徒および保護者に周知
		生徒が不安なく学校に登校できるよう、教師との信頼関係を大切にし、相談しやすい体制をつくる。	学校生活調査(いじめ等)アンケートと相談窓口の案内を実施する。(年3回)
	③交通安全意識の確立	交通マナー向上運動の実施、命の大切さを尊重した交通安全指導を徹底する。	交通に関する講演会および校外指導を実施する。(年1回)
		定期的な自転車・バイクのマナー指導や実技講習・交通講話を開催する。	講習会や車両点検を実施する。(年1回)
④人権意識の確立	いじめ撲滅やネット上のモラル・マナー啓発の講演等をとおして、生徒の人権意識の確立を目指す。	SNS教育(年2回)	

進路指導部	①進路実現への意欲向上と自己啓発	生徒の意識啓発に向けた、学年別進路ガイダンスを各学年3回以上実施する。感染症防止に配慮して実施。 各種の進路説明会を開催し、生徒が各自の進路決定に意欲的に取り組めるように導く。感染症防止に配慮して実施。 生徒および保護者に対し、「進路だより」等で進路選択に向けた有益な情報を正確かつ速やかに提供する。学校HPからも閲覧できるようにする。	生徒・保護者ともに「進路情報の提供について」と「進路学習の機会提供」の学校評価アンケートで、「やや思う」が70%～79%
	②早期の進路決定と実力の養成	進路希望の実現に向けた個別面接指導を充実させ、一人一人の自己実現を支援する。 外部講師による小論文指導講座の開催及び全職員による個別指導等の支援体制を充実させる。 各種の進学相談会や学校説明会などに積極的に参加し、進路に関する情報を自ら収集することにより、早期の進路決定を促す。 就職、進学のための面接指導をとおして、自己を的確に表現する力をつけさせる。 進学決定者を対象に補習体制を整え、学力の伸長を図る。	生徒・保護者ともに「面接指導や個別指導が適切」の学校評価アンケートで、「やや思う」が70%～79%
	③就職実現への意欲向上と自己啓発	職場見学（2年生）、社会人準備セミナー（3年生）、各学年での進路説明会を通じ、就職に対する意識を高める。 校内就職模擬テストを実施し、就職試験に対する意識を持たせる。	職場見学が進路決定の参考になったと回答70%～79% 社会人準備セミナーの内容が参考になったと回答70%～79% 校内就職模擬テストにより就職試験に対する意識を持ったと回答70%～79%
	④就職情報の提供と就職支援の充実	来校した企業やハローワーク、企業との情報交換で受け取った最新の求人情報を、ガイダンスや校内就職模擬テスト等の機会を用いて、就職希望者に早めに伝え、応募企業の決定に役立たせる。 就職試験前面接練習をとおして、企業研究を深め自己を分析し、的確に表現する力をつけさせる。	求人情報を知って、応募企業の決定に役立てることができたと回答70%～79% 担任以外との面接練習（5回）をとおして、企業研究を深め、自らを表現する力が向上したと回答70%～79%
生徒会指導部	①生徒会活動の活発化	生徒会・委員会活動への積極的な参加と、活力ある学校作りを目指す。	生徒会総務委員会を行う（各学期1回）。
	②部活動、同好会への積極的な参加と活発化	部活動・同好会等への積極的な参加を促し、活力ある学校作りを目指す。 全員参加の集団活動として、生徒の協調性や協同性を育む重要な場と位置づける。また、より高い目標を目指す仲間と錬磨し、共に励むことで達成感・成就感を共有させる。	部活動全員加入（85%～90%） 学校評価生徒アンケート「活発で充実している」B以上回答70%
	③協同・自立精神の涵養	体育祭や文化祭等の学校行事をとおして仲間作りの大切さを学び、協同・自立精神のより一層の伸展と定着に努める。	各行事生徒アンケート「協力して活動できた」回答70%

③教科

教科		具体的目標	具体的方策	B評価の基準
普通教科		高校生に求められる知識と教養と体力をバランスよく身に付けさせ、生徒の自己実現に資する。	各教科の特性を活かしながら、論理的思考力・判断力・問題解決能力を育成する。 体力等の様々な観点から生徒の成長を支援する。 分かりやすい授業を心がけるとともに、個々の生徒の状況に応じた指導に留意する。	生徒アンケートによる評価「ややそう思う」50%
	国語	・文章を的確に理解する力を養う。 ・自ら学び、考える力を育成する。	教材を精選し、各ジャンルをバランスよく、体系的に学習する。	分野毎の実施状況を年度末に点検
			発問等の工夫により積極的に授業に参加する姿勢を育み、生徒の心に残る魅力的な授業を展開す	生徒アンケートで評価50%～70%
			次の課題を明示し、家庭学習の定着を図る。	宿題の提出状況が70%～90%
	地歴公民	民主社会の形成者として、健全な批判精神と人権感覚を持つ主権者の育成を計る。	教材内容を精選し、ポイントを押さえながら体系的に学習する。	定期考査平均点60点～65点
			学習の遅れがちな生徒に対応するために、課題提示や補習等を適宜実施する。	対象となった生徒の課題提出率80%
			主権者教育の一環として、時事的事象を授業に積極的に取り入れ、社会的関心を高めさせて参政権の行使を促す。	生徒アンケートで評価50%～70%
	数学	基礎学力の定着を図り、家庭学習の習慣を確立する。	週1回朝学習を実施し、数式計算の定着を図る。	提出率90%
			問題集のノートを提出させ、家庭学習の習慣を確立する。	提出率90%
	理科	知的好奇心と探求心を高め、自然を総合的に観察する態度・能力の育成を図る。	実験・観察の授業を通じ、知的好奇心と探求心を高める。	実験・観察レポートの提出率85%
			日常の授業を通じ、基礎学力の充実を図る。	課題の提出率85%
	保健体育	・身体能力と知識を定着させ、豊かなスポーツライフを実現する資質や能力を育てる。 ・健康、安全に関する内容を総合的に理解し、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力を育てる。	運動経験、能力、興味、関心等を踏まえ、自ら運動能力に親しむ能力を高められるよう、体づくり運動および陸上競技を充実させると共に、球技種目を選択制とし、主体的に取り組む姿勢を養いながら体力の向上を図る。	文科省体力テスト総合評価A及びB判定が全校生徒の40%以上
			ヘルスプロモーションの考え方を生かし、生涯を通じて自己の健康を適切に管理し改善していく思考力・判断力などの資質や能力の育成を図る。	疾病及び怪我等による体育授業見学者が年間5%未満
	英語	外国語の学習を通じて言語や文化に対する理解を深め、英語でコミュニケーションを図ろうとする態度と、そのために必要な英語の運用能力を育てる。	体験的な授業を通じ、基礎的な英語運用能力を身につけるとともに、自己表現する意欲を高める。	定期考査平均点60点～65点
			英語を使用する場면을効果的に設定し、コミュニケーションの手段としての英語を習熟させる。	音読や協働学習(ペア・グループ)を毎時間行う
	家庭	家庭生活を協働して築いていく態度と技能を育て、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質や能力の育成を目指す。	生徒の個性・能力に応じた教材を工夫し、活用する。	生徒の課題達成率80%
			生活に密着した演習・実習を取り入れ、実生活に応用できる知識の習得と技術力の向上を図る。	50%の実習・実習等の実施

商業		・将来のスペシャリストの育成を目標に、専門的な基礎・基本の教育を充実させ、社会的ルール・モラル・マナーを身に付けた経済社会に対応しうる人材の育成を目指す。	専門教科における基礎・基本学習を充実させる。学習到達度を計る検定試験への充実した指導により、合格率を増加させる。	三冠取得者 60～70人
			学習内容を生かした実践的・体験的学習の充実により、社会人即戦力としての、モラル・マナーを身に付けさせる。	デュアルシステム、社会人マナー講習会の実施
	商業科	ビジネスの基礎学力と取得した検定資格によって、幅のある進路選択を可能にさせ、生徒の自己実現を支援する。	授業を通じて資格や試験の重要性を説くことにより、取得への意識付けを行う。	検定未取得者5人未満（在学中）
			放課後や長期休業を利用した補習等の実施により、合格率を高める。	全員受験の検定 合格率 50～60%
	情報処理科	情報に関する専門的な知識を身につけさせるとともに、ビジネスの基礎学力と取得した検定資格によって、生徒の自己実現を支援する。	週末課題を課し、家庭学習の習慣を確立する。	提出率70～80%
			継続的な授業改善により、合格率を高める。	情報処理技術者試験の合格者2～3人
			地域と連携した実践的な学習を実施する。	総合実践実施後 生徒アンケート「よかった」60～70%